

授業科目(ナンバリング)	コア語 I B (A C118)			担当教員	※宋 映沃		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本科目は、「コア語での基礎的なコミュニケーション能力の向上」及び「韓国文化の理解」を授業の目標とする。ハングル文字を読む、書く、簡単な日常会話が話せるなど、コア語での基礎を確認した上、様々な視聴覚資料を用い、グループワークなどを通して実用的会話能力を向上させる。							②⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	韓国社会や文化の理解に積極的に取り組み、異文化コミュニケーションをとることができる。				定期試験	10%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	ハングル文字を正しく理解し、読み書きができる。				定期試験	50%	
	興味のある韓国文化について調べ、発表することができる。				プレゼンテーション	10%	
協働・課題解決力	グループメンバーと協力しながら、テーマを決め、自分の意見を述べるができる。				プレゼンテーション	10%	
多様性理解力	コア語や韓国文化に関する課題に意欲的に取り組むことができる。				課題レポート	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
◎定期試験（穴埋め式、リスニング、筆記式等：60%） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字の仕組みや構造を理解し、読み書きができるかを評価</li> <li>・日常会話での簡単な挨拶が聞き取れるかを評価</li> </ul> ◎プレゼンテーション（20%） <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある韓国文化についてグループごとに発表を行う（フィードバックは、授業中に適宜行う）</li> </ul> ◎課題レポート（20%） <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国文化にふれあい、その感想文を書く（フィードバックは、授業中に適宜行う）</li> </ul>							
授業の概要							
韓国語は日本語と文法が似ているため、馴染みやすい。文の構造を把握し、徐々に韓国語の表現の幅を広げて行く。また「韓国文化へのアプローチ」をテーマとしてグループワークを行った上で、プレゼンテーションを実施する。さらに、授業中は韓国関連のDVD・スライド等も随時使い、モチベーション向上につなげる。この授業の1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：新装版 「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李 志暎 参考書：できる韓国語 初級/ワークブック、できる韓国語 I・II 会話トレーニング 指定図書：新装版 「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李 志暎							
授業外における学修及び学生に期待すること							
ハングルという未知なる世界との知的な遭遇に必要なのは「チャレンジ精神」のみである。受け身的な態度ではなく、積極的な姿勢が求められる。常に、韓国や韓国の文化に興味を持ち、自分なりにスクラップや重要な部分をチェックしておくことが大事である。理解の難しい事項やもっと知りたいことがあれば、気軽に教員に声をかけていただきたい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	基本母音の復習	前期に習った基本母音の文字と発音の復習行う。	基本母音の文字を書き、発音を復習すること。次回の基本子音を読む。
2	基本子音の復習	前期に習った基本子音の文字と発音の復習行う。	基本子音の文字を書き、発音を復習すること。次回のバッチムを読む。
3	バッチムの復習	バッチムの構成と発音の練習を行う。	バッチムの構成と発音を復習すること。次回の文章の構造を読む。
4	文章の構造	ハングルの主語の助詞、名詞の後に付く述語などを学習する。	授業で習った会話文を復習し、次回の会話文をノートに書くこと。
5	挨拶	日常で活用する挨拶のパターンを覚え、繰り返し練習する	授業で習った挨拶文を復習し、次回の会話文をノートに書くこと。
6	指示代名詞	ハングルの指示代名詞や疑問形の作り方について学ぶ。	授業で習った会話文を復習し、次回の会話文をノートに書くこと。
7	韓国の文化1	韓国の文化を楽しもうー1	韓国の若者文化に触れながら、ハングルの発音を復習する。
8	時間表現1	ハングルの時間表現を学んだ後、会話の否定形などをしっかりと身につけるように学習し、練習する。	授業で習った会話文を復習し、全体の部分をもう1度学習する。
9	時間表現2	会話の否定形を応用し、様々な場面で活用できるよう練習する。	授業で習った内容を復習し、小テストに備える。
10	電話での約束	「～ができない」の不可能の表現や意思形をマスターする。特に、不可能形は2通りの表現があるのでそれらに注意しよう。	授業で習った会話文を復習し、次回の会話文をノートに書くこと。
11	韓国の文化2	韓国の文化を楽しもうー2	韓国人の日常生活が窺える映画を用い、日常会話を復習する。
12	電話での約束	「～ができない」の不可能の表現や意思形をマスターする。特に、不可能形は2通りの表現があるのでそれらに注意しよう。	授業で習った会話文を復習し、次回の会話文をノートに書くこと。
13	趣味	ここから、本格的な動詞編に入るためにしっかり活用形を理解する必要がある。完璧に理解するまで、こまかく指導する。	授業で習った会話文を復習し、次回の会話文をノートに書くこと。
14	韓国の文化3	韓国の文化を楽しもうー3	韓国の若者文化が窺える資料を用い、理解する。
15	ホームシック	「原因・理由の表現」、「目的の表現」を中心に会話文を理解する。	授業で習った会話文を復習し、次回の会話文をノートに書くこと。
16	定期試験	定期試験を実施する。	今まで習った内容をレビューし、定期試験に備えること。

授業科目(ナンバリング)	コリア語 I B (AC117)			担当教員	※金キャロライン美熙		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本授業では韓国語の初級レベルからコリア語でのコミュニケーション能力の修得と韓国社会や文化の理解を体系的に学んでいくことを目的とする。韓国語の文字、語彙、文法を中心に学び、読み書きができるようになり、簡単な日常会話の聞き取りや話すことができることである。様々な視聴覚資料を用い、グループワークなどを通して実用的会話能力を向上させる。							②⑥⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	韓国語及び文化に触れることで異文化理解を深めることができる。学習した内容を応用して、様々な状況に応じて簡単な会話、そして初歩的読解や作文ができる。				・定期試験 ・中間試験	10% 5%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	日常会話の状況で自分の意見を表現することができる。興味のある韓国文化について調べ、発表することができる。				・定期試験 ・中間試験	30% 25%	
協働・課題解決力	グループメンバーと協力して、授業中に与えられた課題を果たすことができる。				・プレゼンテーション	10%	
多様性理解力	コリア語や韓国文化に関する課題に自ら問題を解決する能力を養うことができる。				・課題レポート ・小テスト	10% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は、定期試験の結果 40%、中間試験の結果 30%、小テスト 10%、プレゼンテーション 10%、課題・レポート 10%とする。(オンラインで授業を行う場合、評価方法の比率が変更される可能性がある。)</li> <li>・9回目の授業は中間試験を行う。</li> <li>・中間試験、定期試験では文字の仕組みや、読み書き、日常会話での簡単な挨拶能力などの総合的に評価する。</li> <li>・小テスト、中間試験の結果については後日の授業でフィードバックを行う。</li> <li>・基本的に各科の学習目標を達成した上で、小テスト、プレゼンテーション、課題の提出や発表がある。</li> </ul> ※授業計画(シラバス)に沿って授業を進行するのが原則であるが、学習者の理解度・実態により授業の進捗を担当教員の判断の下、変更する場合もある。							
授業の概要							
ハングルが読めるという前提の下、文章の構造を把握し、次第に韓国語表現の幅を広げていく。韓国語は日本語と文法が似ていて慣れやすいが、違う点もあるのでその点を念頭に置いて学習をする。また、興味のある韓国文化のテーマを決めてグループワークを行った上に、プレゼンテーションを実施する。授業中は韓国に関連するDVD・スライドなど活用する。標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：新装版「できる韓国語 初級Ⅰ」 著/新大久保語学院 李志暎 参考書：できる韓国語 初級/ワークブック、できる韓国語Ⅰ・Ⅱ会話トレーニング 指定図書：新装版「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李志暎							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間だけの学びではなく、常に韓国に興味をもち、自ら学ぼうとする姿勢をつけてもらいたい。</li> <li>・授業中におけるペアー・グループでの発音の練習と会話練習に積極的に参加すること</li> <li>・学習を効果的なものにするため、教科書、ノート、筆記用具、辞書を忘れずに持参し、活用すること</li> <li>・課題の提出は締め切り厳守</li> <li>・理解の難しい事項については、気軽に教員に声をかけていただきたい。(carolinekim930@gmail.com)</li> </ul>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス 文字の復習	1. 前期に習った基本母音、子音の文字と発音の復習を行う。 2. バッチムの構成と発音の練習を行う。 3. 前期に学習した、文章を練習する。	基本母音の文字を書き、発音を復習すること。次回の基本子音を読む。
2	発音の変化の復習	1. 単語や文章で発音の練習を行う。 2. 漢数字を紹介する。	授業範囲を読んでくる。 次回の文章の構造を読む。
3	自己紹介	第 1 課 저는 일본 사람입니다. (助詞 은/는)	授業で習った学習内容を復習し、全体の部分をもう 1 度学習する。
4	否定文の作り方	第 2 課 일본 사람이 아닙니다. (助詞 이/가)	授業で習った単語を復習し、全体の部分をもう 1 度学習する。
5	指示代名詞について	第 3 課 ① 그건뭐예요? (이것, 저것, 그것 등)	授業で習った単語を復習し、全体の部分をもう 1 度学習する。
6	否定文の作り方	第 3 課 ② -가/이 아니예요.	授業で習った学習内容を復習し、全体の部分をもう 1 度学習する。
7	質疑応答 および存在詞・動詞の練習	第 4 課 약속이 있습니까? ① (습니다. ㅂ니다.)	授業で習った学習内容を復習し、全体の部分をもう 1 度学習する。
8	存在詞・動詞の練習	第 4 課 약속이 있습니까? ②	授業で習った用言の活用を復習し、全体の部分をもう 1 度学習する。
9	中間試験およびアクティビティ	中間試験を行った後、 韓国の文化テーマのアクティビティ	試験範囲を復習する。 授業内容を確認する。
10	位置名詞	第 5 課 회사는 어디에 있어요?①	中間試験のフィードバックをする。授業内容を確認する。
11	レビュー 動詞の活用	第 1～5 課 まとめレビュー 第 6 課 ① 주말에는 뭐 합니까? (ㅂ/습니다)	授業範囲を読んでくる。 授業内容を確認する。
12	文型（並列）	第 6 課 ② 주말에는 뭐 합니까? (-고) グループワーク	授業で習った学習内容を復習し、発表の準備をする。
13	動詞の活用・文型	グループ発表	授業で習った学習内容を復習し、次の課を予習する。
14	否定動詞の活用	第 7 課 그렇게 멀지 않습니다. 短い否定・長い否定	授業で習った学習内容を復習し、プレゼンテーションの準備をする。
15	韓国文化リサーチ	プレゼンテーション まとめ	試験範囲を復習する。 授業内容を確認する。
16	定期試験	定期試験を実施する。	今まで習った内容をレビューし、定期試験に備える。

授業科目(ナンバリング)	コリア語 I B (AC118)			担当教員	※権 容善		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本科目は、基本会話、また、韓国の文化について理解することを授業の目標とする。具体的には、韓国語（ハングル）の文字の仕組みや構造を学び、読み書きができるようになる。また、様々な視聴覚資料を用い、韓国文化に触れながら、楽しくコリア語を身につけていく。さらに、将来の仕事に役に立つ韓国語を学習する</p>							②⑥⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・ハングルを読む、書くことができる。				定期試験	20%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	<p>・ハングルを使用した簡単コミュニケーションをことができる</p> <p>・簡単な日常会話をペアで行うことができる。</p>				小テスト 授業態度 定期試験	20% 10% 20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	韓国の文化を理解することができる。				グループ 課題レポート 定期試験	20% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験（50%）では、ハングルの読み書きができるかを確認し、簡単な単語についての理解できているかを確認する。また、コミュニケーション能力と多様性について理解しているかを確認する。小テスト（20%）は、2回の筆記式（10%）、1回の会話（10%）で評価を行う。授業態度（10%）は、授業の積極性および出席状況などで確認する。課題レポートは、韓国の文化について調べて、発表することで評価をするが、具体的な課題については、授業中に説明を行う。課題レポートについては、必要に応じて、授業内でフィードバックを行う。</p> <p>なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>韓国語は日本語と文法が似ているため、馴染みやすい。韓国語の文書の構造を把握し、韓国語の表現の幅を広げて行く。また「韓国文化へのアプローチ」をテーマとし、授業中は韓国関連のDVD・スライド等も随時使い、モチベーション向上につなげる。この授業は、韓国語の文字の基本的な読み方を学習していることを前提とする。なお、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：新装版 「できる韓国語 初級Ⅰ」 著/新大久保語学院 李志暎</p> <p>参考書：できる韓国語 初級/ワークブック、できる韓国語Ⅰ・Ⅱ会話トレーニング</p> <p>指定図書：新装版 「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李志暎</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>韓国語の授業では、積極的な姿勢が求められる。今まで、触れたことがない方が多いと予測されるが、積極的に取り組み、本授業を通して、韓国語や韓国文化に興味を持つことが大事である。理解の難しい事項については、気軽に教員に声をかけていただきたい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	文字の復習	1. 前期に習った基本母音、子音の文字と発音の復習行う。 2. 前期に学習した、文章を練習する。	基本母音の文字を書き、発音を復習すること。次回の基本子音を読む。
2	バッチムの復習	1. バッチムの構成と発音の練習を行う。 2. 第3課 그건 뭐예요?①	バッチムの構成と発音を復習すること。次回の文章の構造を読む。 教 20-21p、50-52p
3	自己紹介	第1課 저는 일본 사람입니다. (助詞 은/는)	予：授業範囲を読んでくる。 教 pp. 20-23、pp. 40-43 復：授業内容を確認する。
4	否定文の作り方	第2課 일본 사람이 아닙니다. (助詞 이/가)	予：授業範囲を読んでくる。 教 pp. 20-23、pp. 44-49 復：授業内容を確認する。
5	指示代名詞について	第3課 그건 뭐예요?② (이것, 저것, 그것 등)	予：授業範囲を読んでくる。 教 20-23p、53-55p 復：授業内容を確認する。
6	指示代名詞について ワークブック	第3課 그건 뭐예요? ② (이것, 저것, 그것 등)	予：授業範囲を読んでくる。 教 pp. 20-28、pp. 53-55 復：授業内容を確認する。
7	質疑応答① および動詞の練習	第4課 약속이 있습니까? ① (습니다. ㅂ니다.)	予：授業範囲を読んでくる。 教 pp. 59-60 復：授業内容を確認する。
8	質疑応答② ワークブック	第4課 약속이 있습니까? ②	予：授業範囲を読んでくる。 教 59-60p 復：授業内容を確認する。
9	小テストおよび 韓国の文化 1	小テストを行った後、韓国の文化を楽しもうー1	予：授業範囲を読んでくる。 復：授業内容を確認する。
10	家族関係および 位置名詞①	家族関係について知る。 第5課 회사는 어디에 있어요?①	予：授業範囲を読んでくる。 教 61-65p 復：授業内容を確認する。
11	位置名詞② ワークブック	第5課 회사는 어디에 있어요?②	予：授業範囲を読んでくる。 教 66-67p 復：授業内容を確認する。
12	連携語について (して、してから)	第6課 주말에는 뭐 합니까?①	予：授業範囲を読んでくる。 教 68-70p 復：授業内容を確認する。
13	否定動詞の活用 ワークブック	第6課 주말에는 뭐 합니까? ②	予：授業範囲を読んでくる。 教 71-73p 復：授業内容を確認する。
14	小テストおよび 時間表現	小テスト：グループ発表 会話の否定形を応用し、様々な場面で活用できるよう練習する。	予：授業範囲を読んでくる。 復：授業内容を確認する。
15	多様な動詞	様々動詞に触れる	予：授業範囲を読んでくる。 教 pp. 73 復：授業内容を確認する。
16	定期試験	定期試験を実施する。	今まで習った内容をレビューし、定期試験に備えること。